寺だより

平成29年 極樂寺 12月号

あなたは幸せですか？ こう聞かれて、即座に「はい、幸せです」と答えられる人が何人いるでしょうか。多くの人は、もっと収入があれば、時間があれば、健康であれば……と不足をあげるのではないのでしょうか。

向上心を持ち努力するのは良いけれど、不足ばかりに目がいけば、いつまでたっても幸せと感じることはできないでしょう。まして、「命」には限りがあります。人は必ず「死」を迎えます。この世での永遠の命は存在しないのです。誰でもいずれ死ぬことはわかっています。それを認めていかに死ぬかと思えば、いかに生きるべきかがわかります。

自分の目には見えない力、つまり阿弥陀さまに護られ、ご先祖さまに守られていると確信すれば、感謝の気持ちが起こります。すると自然に手があわさり、口に「南無阿弥陀仏」とお念仏が申せるようになり、安心して人生を歩むことができます。そして、「安らかな最後」というように、思い残すことなく西方極楽浄土に往生することができます。阿弥陀さまのお救いを願い、お浄土に往生することを目指し「南無阿弥陀仏」とお念仏を申すことこそ、真の幸せの生活といえるのではないでしょうか。だから、そのために私たちは、仏事を行なうのです。先祖代々連綿と伝わってきた文化や歴史を、継承し子供に伝えて行くことによって、安心感、安堵感や、救いをもたらしてくれています。

年の始めに極樂寺で行なっている行事「修正会」というのも、年の変わり目で旧(ふる)い年から新しい年を生きる節目の行事であります。

仏事を行なうことによって、私たちは、新しい自分を取り戻す機会を得ることができ、つながりという面で、仏事は極めて大きな意味合いを有しております。先祖代々にわたり日本人が長い歴史の中で積み上げてきた。又現在も積み上げている文化であり歴史そのものであります。歴史の中で続いている大切なものを守りながら、子や孫にも継承していくことが大切なのでございます。

皆さまも年の終わりに「南無阿弥陀仏」とお称えし、煩悩を除いた清らかな心で新年をお迎えし、修正会には、ぜひ御参堂賜ります様お待ち申し上げております。

年末にあたりこの一年間菩提寺にご支援、ご協力を賜りましたこと誠に有難く、厚く御礼申し上げます。来年も相変わらずよろしくお願い申し上げます。

弘響 左

お知らせ

修正会のごあんない

（「一年の計」は極樂寺阿弥陀さまの前にて念仏申しましょう）

平成30年1月1日(月)

午後1時（法要念仏）

1時30分（説法）

副住職 伊藤良成上人

五重相伝のごあんない

第11回目五重相伝を

平成30年1月17日(水)から

1月21日(日)の5日間です。

※参加費は昼食（おやつ含む）として1日1000円です。

檀信徒の皆様には必ず一度は五重相伝会に参加していただきい法会です。

お寺からのご案内やお知らせが届きますように**新住所**に変わりましたら恐れ入りますがお寺まで必ずお知らせ願い申し上げます。
（電話、FAX、ハガキ等でお願いします。）

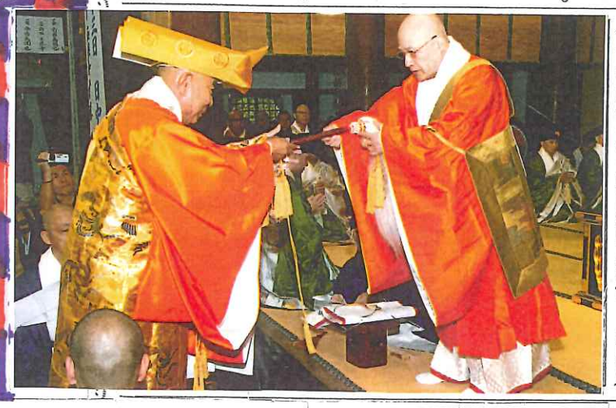
極樂寺で葬儀を行なう時のパソコン（香典用ソフト）管理揃えましたのでご安心下さい。

御檀家の皆様におかれましては、御支援・御協力を賜りご参加いただきましたこと、誠に有難く心より御礼申し上げます。（教界通信（浄土宗）に掲載されましたのがうれしくコピーさせていただきました。）

極樂寺第五十世伊藤慶成住職 大本山光明寺十夜法要日中法要御代理導師記念 平成29年10月13日

光明寺 鎌倉光明寺のお十夜 開山良忠上人のお寺

十夜法要は浄土宗の大切な法要として毎年十月から十一月にかけて営まれる。鎌倉の浄土宗大本山光明寺は、お十夜が当時の天皇から初めて許されたお寺であり、十月十二日に柴田哲現法主の親修による開白法要が勤められてから十五日の結願法要まで、伝統ある引声念仏により荘厳裡に営まれた。期間中は雨もようで、温度が下がる肌寒い気象となったが、法要には貸し切りバスで檀信徒が大勢参列し、本堂内外は熱気に包まれていた。このため境内や三門前の出店は生憎、出足が鈍ったようだ。



光明寺の十夜は地元の名物行事で、お祭りのような賑わいがある。しかし雨が降ると、お練りが外では出来ず、開山堂から本堂周囲の回廊を周るお練りとなる。

光明寺は浄土宗第三祖然阿良忠記主禅師によって開かれ、開基は鎌倉幕府・北条四代の執権・北条経時と言われる。

十三日の日中法要は御代理導師で千葉教区東総組の極楽寺住職、伊藤慶成上人が勤めた＝写真＝。

ちなみに伊藤氏は昭和四十年代に大本山増上寺で修学した。当時の学衆は朝五時からの勤行に必ず出席し、掃除や昼食、法事の手伝いを行い、法務と修行・学問を先輩僧侶とともに学んだ。僧侶の資格を取る準備として実務を伴ったシステムであった。

同氏の自坊・極楽寺は千葉県にある良忠上人開山の寺である。布教師として活躍する同氏は五重相伝の開莚でも工夫を凝らしている。現代人の生活にも合わせ、受講しやすい日程で、毎年実施している。